

コモنز

— 学びの共同体 —

=目次=

- 平成28年度奈良県立大学coc事業シンポジウム/
シンポジウム「大仏鉄道は府県境をどのように越えたか」…P1~2
- 基礎ゼミでの奈良市内の野外活動—大学近隣地域の観察—/
生産の現場を学ぶ—食品工場の見学—…P3~4
- 「磯城の里ウオークパンフレット」を利用した三宅町における
学外実習について…P5~6
- 「さくらい花咲かプロジェクト」/
なら国際映画祭「ならシネマテーク」県大で開催/
県大生vs教職員ソフトボール大会の開催…P7~8
- 奈良県立大学全学アンケート調査の結果報告…P9~10
- 新任教員の紹介…P11

4つのコモنز
が地域を
動かす。

平成 28 年度 大学 COC 事業 「コモンズ教育の確立と地 (知) の拠点形成シンポジウム」を開催しました

平成 29 年 3 月 4 日(土)13 時～、本学の地域交流棟 2 階中研修室において、平成 28 年度奈良県立大学 COC 事業シンポジウム「コモンズ教育の確立と地 (知) の拠点形成シンポジウム」が開催されました。このシンポジウムは、個々の地域社会における多種多様な文化的活動が地域課題の解決に役立てられているという事例を紹介し、その活動の可能性について考えるとともに、本学のコモンズ教育の事例をあげて、「学問」と「地域」がいかに関わりうるのか、という点についても検討を加えることを目的におこなわれたものです。



富塚千秋氏の報告



小野小町氏の報告



西尾美也専任講師の報告

本シンポジウムの司会進行は本学の梅田直美准教授が担当し、冒頭、伊藤忠通学長の挨拶、岡井崇之准教授の趣旨説明の後、シンポジウム第 1 部の「地域文化の創造力／想像力～ボディワーク・演劇・アート～」が開かれました。ここでは、産婦人科・助産院・病院等でヨガ・ボディワーク・子育て講座をされている富塚千秋氏(ナントカと猫企画代表)、オリジナルの演劇・短歌・ラジオドラマ



パネルディスカッションの様子

などを奈良から発信されている小野小町氏(「小町座」主宰)、そして現代美術・アートマネジメント・ファッション環境デザインを専門とする本学の西尾美也専任講師の 3 氏をパネリストに、各方面の文化的営みとその活動の普及について報告を受けました。また、岡井崇之准教授をコーディネーターとして進められたパネルディスカッションでは、歴史的・伝統的な文化とは異なる、新たな地域文化の創造力／想像力)の可能性を中心に議論がなされました。

なお、第 2 部では、本学の教員 5 名の地域志向教育研究の発表(下記の表参照)が、同時に地域交流棟 1 階の小研修室ではインターコモンズゼミの学生による「4 つのコモンズ活動報告」がありました。

地域志向教育研究発表(3月4日のシンポジウム発表順)	
地域特性に応じた地域包括ケアシステム構築に向けた事例研究	神吉 優美 准教授
学生の進路実現のための地域志向教育に関する調査・研究	小松原 尚 教授
中山間地域における地域活性化の方向性—高知県嶺北地域を中心に—	鶴谷 将彦 専任講師
農業の6次産業化—宇陀市薬草産業における市場創造の研究—	山部 洋幸 専任講師
日本における移民言語の実態についての教育研究とその方法の検討	窪田 暁 専任講師

大学 COC 事業 都市文化政策提言シンポジウム

「大仏鉄道は府県境をどのように越えたか」を開催しました

平成 29 年 3 月 27 日(月)13 時 30 分～、本学 3 号館 2 階ホールにおいて、奈良県立大学 COC 事業都市文化政策提言シンポジウム「大仏鉄道は府県境をどのように越えたか～『幻の大仏鉄道遺構めぐりマップ』の制作過程から～」を開催しました。

このシンポジウムは、ウォーキングのコースを観光資源として活用しようという自治体と、地域の取り組みの一つであるウォーキングマップに焦点を当てて、その一例である『幻の大仏鉄道遺構めぐりマップ』の制作過程とその効果を検証することをテーマにおこなわれたものです。

堀野正人教授の開会挨拶、窪田暁専任講師の趣旨説明の後、第 1 部では本学学生と教員による研究報告があり、井上翔斗さん(発表当時 2 年生)「廃線跡再生は府県境を無事越えることができるのか?」、鶴谷将彦専任講師「複数の行政・民間団体による連携の可能性」、西尾美也専任講師と川元絢貴さん(発表当時 3 年生)「大仏鉄道の車輻をデザインするワークショップ」の 4 氏より、それぞれ発表がありました。

第 2 部のパネルディスカッションは、窪田講師をコーディネーターとして進められ、実際に制作に携わった行政として奈良市観光振興課から上野貴清氏、堀田恵子氏を、木津川市観光商工課から西谷昌豊氏を、民間団体の担当者として大仏鉄道研究会副会長の高橋正男氏をお招きし、第 1 部の発表者である鶴谷講師、西尾講師を交えて本シンポジウムのテーマについて議論がなされました。府県境をまたぐ二つの行政による連携の意義についてや、発案者である大仏鉄道研究会の熱い思いなど、同マップの制作過程の実態について、それぞれの立場からの貴重なご意見を聞くことができました。

「幻」とも言われる大仏鉄道に関するシンポジウムということで、この日は 100 名を越える多くの地域の方々にお越しいただき、会場は満員となりました。とりわけ、近年のウォーキング人気もあってか、中高年層の聴講者が多く見受けられました。このような隠された地域の歴史的資源を発掘し、それを新たな観光資源として有効に活用していくという試み、その一つのモデルケースとしての可能性について、会場からの質問・提言を含め、自由闊達な意見交換がなされました。



井上翔斗さんの発表



川元絢貴さんの発表



パネルディスカッション

基礎ゼミでの奈良市内の野外活動

—大学近隣地域の観察—

4月27日2限目を利用して、学習空間環境調査を実施しました。佐保川沿いから大学の西側の崖の植生を観察、ガラガラ池の碑を通過して、近鉄油阪駅跡、さらに登大路を東へ進み近鉄奈良駅周辺や東向商店街の古写真(入江泰吉「昭和の奈良大和路」などをテキストとした)と現在とを比較、その変化をみました。県庁東のバスターミナルの工事の様子も遠望観察しました。最後は、ファーストフード店での観察活動を行いました。

学習空間環境調査は、学生を調査補助として活用し、学生自らの目線により、対象地での学習活動の環境調査のみならず集合から目的地まで、その往復途上も含む調査活動です。学生からの調査報告に基づき、活動状況の報告をします。

大学(学校)教育にあっては何よりも学生の安全に関して最大限の配慮がなされるべきです。そして、学生自身もこの点からの関心を持つ必要があります。この点で移動中における観察報告より確認してみたものを次に記します。「大学から交差点へ出ると道幅が広く感じられ自動車の流れは良好であったが、歩道は少し狭く感じた。車道が大通りで車の数も多いため、自転車も歩道を走ることが多い。また、途中にはバス停もあるので更に狭く感じ、今回のように団体が通るとどうしても道幅いっぱいスペースをとってしまうので、歩行者と自転車が快適に通行するためにはより広い道幅が必要」との意見でした。



近鉄油阪駅跡での観察



東向き商店街にて

学外の店舗の利用から得た知見としては、ファーストフード店での観察活動も実施しましたが、店舗におけるインバウンド対応についての観察結果では、外国人観光客の多い観光地の近くにあるため、英語を話せる店員がほとんどだったこと。外国人観光客に向けてのお土産(チェーン店オリジナルのペンケース)コーナーもあったこと。そして、店員さんのように、外国人観光客の方々に対して英語で会話を成立させられるような英語力を身につけたいと思ったことの報告がありました。

また、今回の活動の学生自身の得たものとしては、昔の写真と対応させることで、今では存在しないものでも少しだけ名残があったりするのがいいなと思ったし、昔の奈良の様子を垣間見ることができてよかったです。タイムスリップをしているような感覚で楽しかったです。さらに、一人でいても気づくことができない部分を先生や基礎ゼミのみんなと巡ることができてたのしかったです。という意見がありました。

(地域経済コモンズ 教授 小松原 尚)

生産の現場を学ぶー食品工場の見学ー

アサヒ飲料株式会社明石工場とヤクルト本社三木工場

2017年2月14日に地域経済コモンズの2年生（執筆時3年生）が小松原・栗村・津田・山部の4人の教員とともに、学外学習を実施しました。訪問先はアサヒ飲料株式会社明石工場（以下、アサヒ）とヤクルト本社兵庫三木工場（以下、ヤクルト）です。結論から述べれば、学生の1人は「今回、2つの工場を見学して、工場見学には様々な工夫と気配りが大切なのだと分かった。そして会社によって、製品によって工場の仕組みは大きく変わるのだと理解した。」と、成果を報告しています。アサヒとヤクルトは飲料という同じ性質のものを生産していると捉えがちですがどのように違うのでしょうか。アサヒでは「三ツ矢サイダー」、「十六茶」、「WONDA」といった様々な飲料を生産しており、ペットボトル飲料、缶飲料を主体に生産しています。一方、ヤクルトではヤクルトの原料液、「ミルミル」、さらには「ソフール」といったヨーグルトも生産しており、製品の中心は培養した菌から展開されていることがわかります。結果、見学についても違いがみられました。アサヒでは、自社ブランドの飲料の歴史およびペットボトルと缶のリサイクルの取り組みが伝わる見学であったのに対し、ヤクルトでは菌の効用と歴史、従業員の服装が2種類あり、髪の毛やほこりが入らないよう工夫された制服やロッカーも3つ用意するといった衛生管理が伝わる見学であったといえます。

今回の学外実習では実際の事例を比較し、考察するというプロセスで、共通点は何か、相違点は何かという視点から物事をとらえる学習であったといえるでしょう。

（地域経済コモンズ 講師 山部洋幸）



アサヒ：炭酸飲料の歴史の説明を受ける



ヤクルト：ゲームを通じて菌を学ぶ



ヤクルト：CMのキャラクターを模型で表現

「磯城の里ウォークパンフレット」を利用した 三宅町における学外実習について

4月27日(木)3、4限を利用して奈良県三宅町内で野外活動を実施しました。地域経済コモンズでは、2年次生を対象に前学期と後学期にそれぞれ1回ずつ、全体活動をおこなっています。今回は予め設定したチームでのグループワークの取組であり、定められた時間までに作業を完了するという課題解決学習の一環でもあります。当日は天候にも恵まれ、参加の学生には爽やかな活動となりました。尚、安全指導教員は小松原尚、栗村俊夫、山部洋幸、下山朗の4名で対応しました。



『磯城の里ウォークパンフレット』電子ブックより



石見(玉子)遺跡展示所にて



ゴール地点(近鉄石見駅)に到着

今回の「磯城の里ウォークパンフレット」を利用した三宅町における学外実習は、「太子道と古墳群のある三宅町を歩きながら地図にない今の街を見つける」をテーマに実施しました。活動目的としては、i) 三宅町を訪問し、観察活動によって地域に対する理解を深める、ii) 自治体が作成した町の紹介地図を利用して町内をフィールドワーク相談担当グループで歩きながら、地図では表現しつくされていないその町の特徴を発見する活動を通して、グループワークの方法を身につける、iii) 地域経済コモンズの関連科目やこれまで自らが地域創造学部で履修した諸科目の授業内容と活動内容との関連性を考える、こととしました。

活動の流れは、近鉄奈良駅、12時26分発の難波・奈良線快速急行に乗車し移動しました。そして、大和西大寺12時31分着(乗換)12時35分発、石見駅、12時56分着しました。そして、13時にグループごとに出席確認と3限用のワークシートの課題発表、課題送信の後、出発しました。最後は16時10分、石見駅で解散しました。

活動内容は、三宅町のフットマップを利用したグループ活動による地域発見の旅であり、必ずグループで一緒に行動しますが、担当教員と一緒に歩くかは各グループの判断に委ねました。また、活動においては、地図の各地点の中で、予め定めた必訪問地4か所を含む10か所以上を訪れるラリー形式を採用しました。コースの設定はグループの合議に委ね、時間内に効率よく回れるように自主的に考えることとしました。立寄地点に着いたら、グループ全員の集合写真を撮影し、それを予め指定した小松原のメールアドレスまで添付送信するように指示しました。各グループの活動の一端が伺える内容になっていました。

(地域経済コモンズ 教授 小松原 尚)

三宅町学外実習に同行して

2017年4月27日に行われた「磯城の里ウォークパンフレット」を利用した三宅町における学外実習に、一教員として自分の担当する学生と行動をともにしました。そこから感じたこと、教育的な効果、観光地としての課題について触れていきます。例年、地域経済コモンズでは学外実習の取り組みが行われています。今年はウォークパンフレットを利用して3時間の観光地視察をしました。グループごとに決められたチェックポイントを回りながら観光地を見ていきます。近鉄橿原線石見駅を出発し、太子道と古墳群のある三宅町を東西南北、端から端まで歩いて回りました。

写真にあるとおり、女子学生5人のメンバーであったこともあって、少しゆったりとしつつも男子学生とは少し目線が違う発見もありました。私はもともと奈良県に縁があまりなかったため、子どもの頃に習った歴史上の人物、あるいは場面が登場するこの街の史的な奥深さを感じていましたが、彼女たちは、万葉歌碑の広場にある日光を受けて御影石にハートの影をうつすモニュメントに感動するなど、世代や個人で異なる目線で地域と触れあえる楽しみが発見されました。



万葉歌碑にて



白山神社にて

この学外実習は、観光客目線にたって体験はしているものの、決して観光気分だけを味わうものではなく、そこから学びを得ていくものです。そのために、メンバーはそれぞれテーマを決めて報告書を作成するなどしています。良いなあでは終わらない課題の発見は、その後の図書館やパソコンの前での学習にも役に立つと思います。

最後に、私が感じた観光地としての課題を少しだけ挙げておくと、パンフレットはしっかりと綺麗に作られているものの、観光客にとってどの道が安全か、道中の目印がなにかないのか、また相当距離的なボリュームがあるのでもう少し絞ったおすすめコースもできないものかという3点を感じました。これからも学生は様々な視点、立場から勉強を続けていき、より専門的な学びにつなげていって欲しいと思います。

(地域経済コモンズ 准教授 下山 朗)

さくらい花咲かプロジェクト

—平成 28、29 年度 桜井市市民協働推進補助金事業—

「さくらい花咲かプロジェクト」は本学のコミュニティデザイン commons の学生が桜井市で行っている地域活動です。平成 27 年度に桜井市市民協働推進補助金事業の「公益活動コース」に採択された「多世代交流『ほっとスペース』プロジェクト」(『commons』第 7 号 5～6 頁参照)に続いて、平成 28 年度に補助金事業の採択を受けました。

昨年、「花咲かプロジェクト」は大きく 2 つの目標を立てて取り組みを行ってきました。1 つは、桜井市の次世代を担う人々が「ここで子育てをしたい」と思える街にするために、子育て世代や子どもたちのニーズを知り、そのニーズに対応すること、2 つは、子どもたちが継続して住みたいと思える街にするために、より多くの人々が気軽に参加でき、交流できる居場所を提供すること、です。

その 2 つの目標に向けて、メンバーは同市で開催される市民団体の地域活動等に参加し、参加者である子育て世代を対象に、日常生活におけるニーズや地域のイベントに関するアンケート調査やヒアリング調査をおこないました。そして、その結果をもとに地域活動を進めることにしました。学生たちの考えた活動は、本町通商店街「ハロウィンウォークラリー」と婚活支援活動「めん恋 2016 in 桜井」となり、それぞれの広報にも力を入れました。



婚活イベント「めん恋」の案内

10 月 23 日(日)に開催された「ハロウィンウォークラリー」は、前年度の『ほっとスペース』プロジェクトで企画されたハロウィンをテーマにした多世代交流活動をさらに発展させたものです。桜井市本町通商店街にある「たまり場」を拠点に企画・運営をおこない、スタンプラリーの要素を取り入れ、子どもを中心とした参加者が協力店の店主とも交流できるよう心掛けました。当日は、100 名を超える地域の親子が参加し、商店街は賑わいをみせました。

12 月 18 日(日)開催の「めん恋」は、桜井市の大神神社周辺を舞台に、市内の古民家カフェでのレクリエーション、別施設で三輪そうめんの手延べ製造工程を体験することで、若い世代の参加者に、桜井の魅力



満喫しながらお互いの交流を深めてもらうよう工夫を重ねました。22 名の参加者があり、好評を得ました。

この「さくらい花咲かプロジェクト」は、今年度も桜井市市民協働推進補助金事業「公益活動コース」に採択されました。今年度は、地域住民や地元の高校生に関する調査を行い、その結果をもとに、ハロウィンウォークラリーやスポーツ大会などの活動に取り組む予定です。

平成 29 年度 市民協働推進補助金事業審査会での発表(平成 29 年 5 月 31 日)

なら国際映画祭「ならシネマテーク」が県大で開催されました

平成 29 年 3 月 10～12 日、なら国際映画祭の「ならシネマテーク」(主催：NPO 法人なら国際映画祭実行委員会)が本学 3 号館 2 階多目的ホールにて開催されました。

「ならシネマテーク」は、奈良市内で毎月開催されている移動映画上映会です。上映会場として本学をご利用いただいたのは、今回が初めてです。全 8 作品が上映され、3 号館の多目的ホールが小さな映画館になりました。

期間中は、奈良を舞台に制作された映画も多く上映されました。上映後に鑑賞者と歓談交流の機会が設けられたりするの「ならシネマテーク」の魅力の一つのようで、3 月 10 日(金) 19 時～の『チョコレートケーキと法隆寺』上映後には、同作品の監督である向井啓太氏がサプライズゲストとして登場されました。

この「ならシネマテーク」では、設営・受付・誘導のボランティアを募集されています。今年も数名の県大生が取り組んでいます(ボランティア希望学生は地域交流室まで)。



春休みだったので知らない学生さんが多かったかも・・・



向井啓太監督と中野聖子氏(なら国際映画祭実行委員会実行委員長)の対談

第 1 回 県大生 vs 教職員ソフトボール大会を開催!

5 月 27 日(土) 14 時～。記念すべき第 1 回目の県大ソフトボール大会が開催されました。

この大会は、本学の高津融男准教授に発起人となっていただき、ソフトボール部、軟式野球部をはじめとする学生の皆さん、ならびに教職員にお声かけいただき、開催の運びとなりました。

試合当日は晴天で、暑すぎず、時折気持ちいい風も吹いて、絶好の野球日和でした。試合の結果は 20 対 5 (5 イニング規定) で県大生の圧勝。試合後は、お互いの健闘を讃える懇親会で盛り上がりました。この大会が今後も続いて、県大の恒例のイベントとなっていくことを期待します。

～第 1 回参加者(有志)について～

教員：高津融男先生(発起人)、岡井崇之先生、松岡慧祐先生

特別参加：岡井先生のお子さん

学生：ソフトボール部、軟式野球部
をはじめとした皆さん

職員：総務課、附属図書館、
キャリア・サポート室、
地域交流室

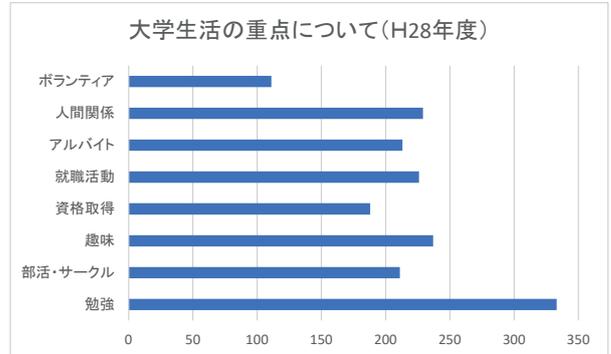
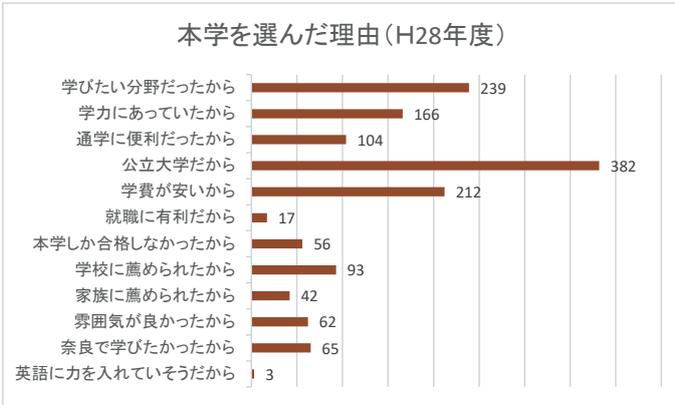


いい感じに晴れました

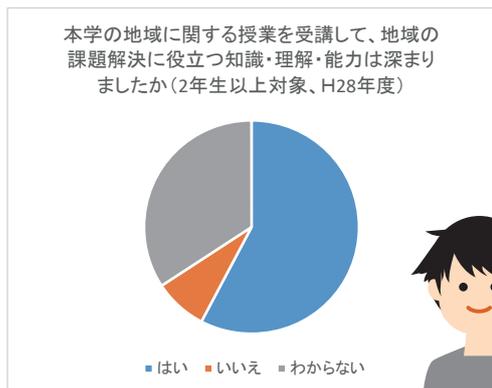
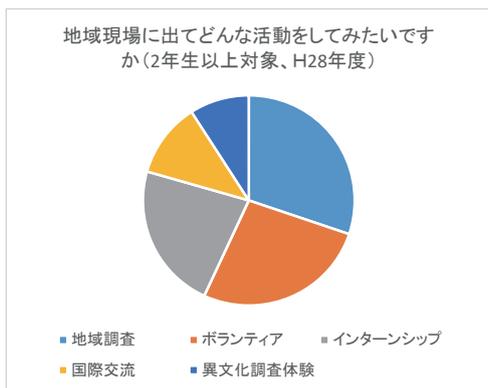
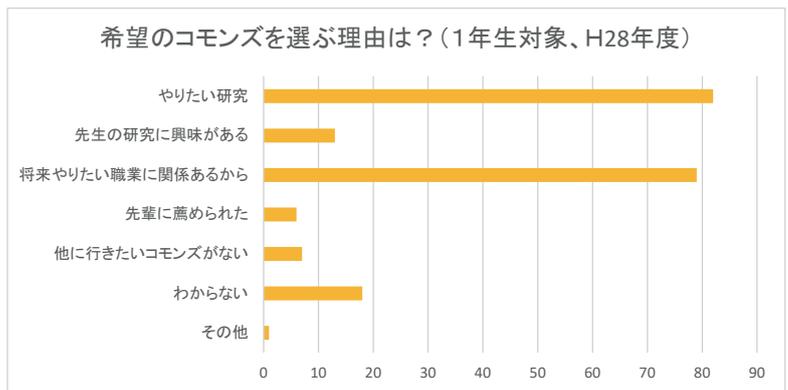
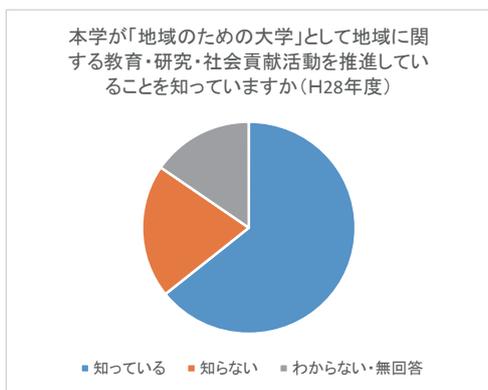
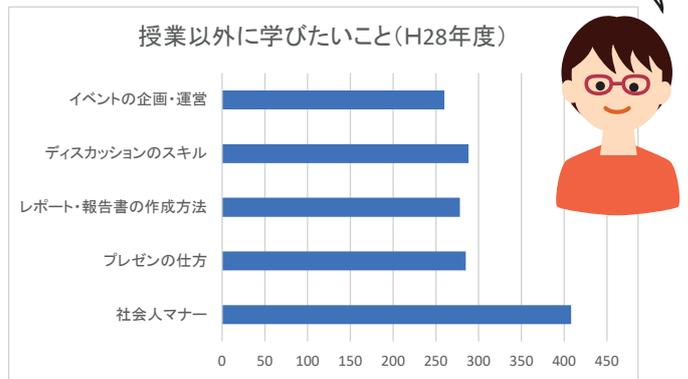
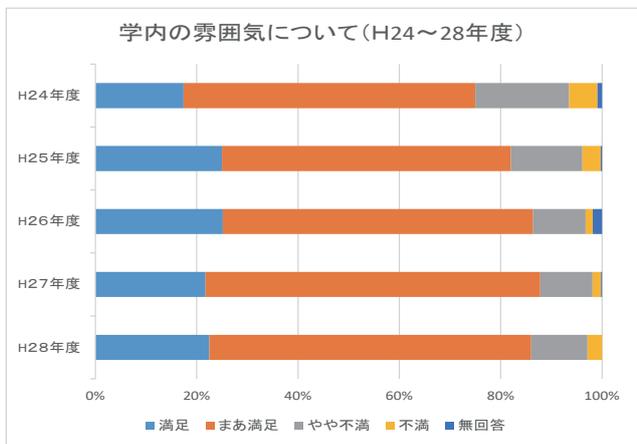
試合後、みんなで記念撮影

奈良県立大学全学アンケート調査の結果報告

地域交流室では、平成 25 年度から毎年、「奈良県立大学全学アンケート調査」を行ってきました(※)。ここでは採取したデータの一部を報告したいと思います。毎年変化の少ない項目については最新の平成 28 年度のデータで、変化の見られた項目に関しては時系列にグラフ化をしています。

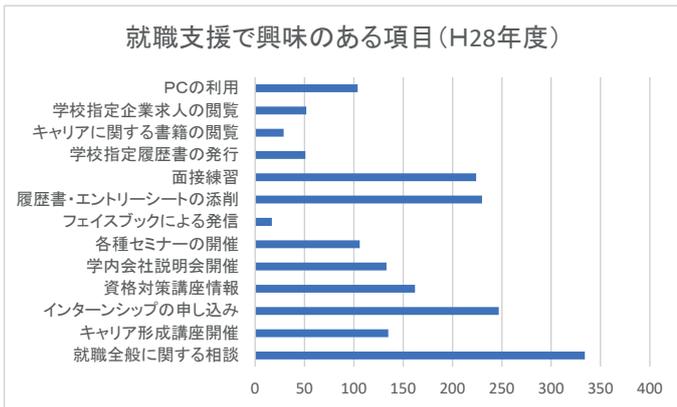
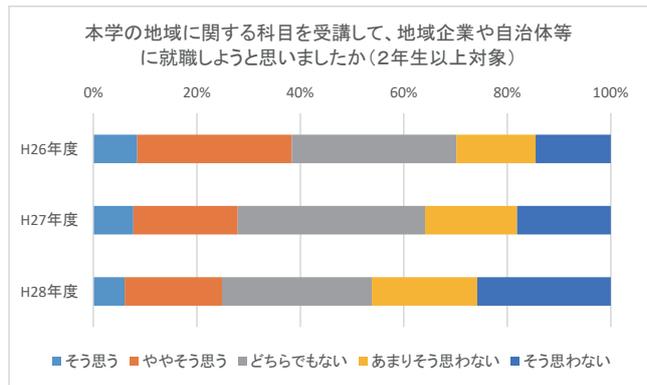
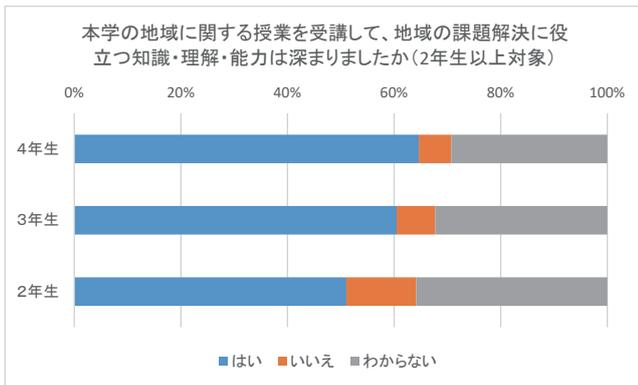


平成 26 年度の調査項目の「大学に対する意見」で最も多かったのは、トイレや飲食の場、Wi-Fi 環境等の施設整備の要望、大学の教育カリキュラム(コモンズ制・F/W制度)への不安の声でした。

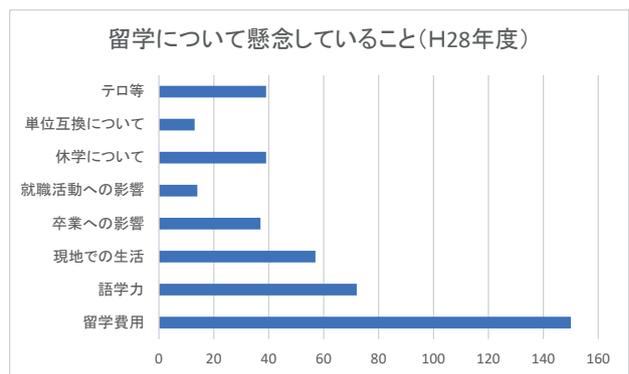
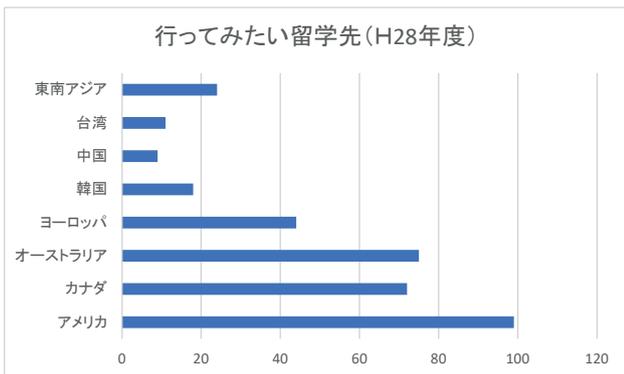
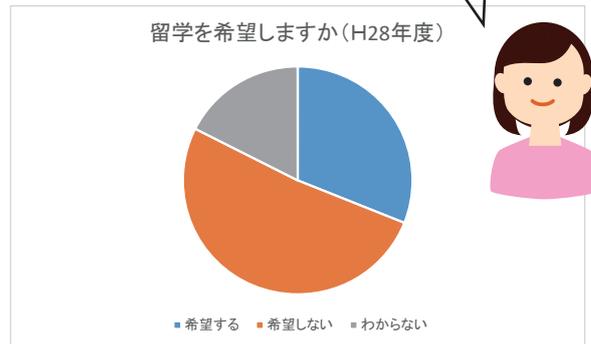


地域創造学部というだけあって、地域調査・ボランティアに興味を持つ学生が多いです。コモンズの選択に当たっては、自分がしてみたい研究や将来の職業との関連性で、コモンズを選択しているということがわかります。

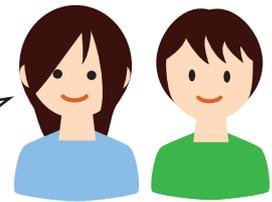




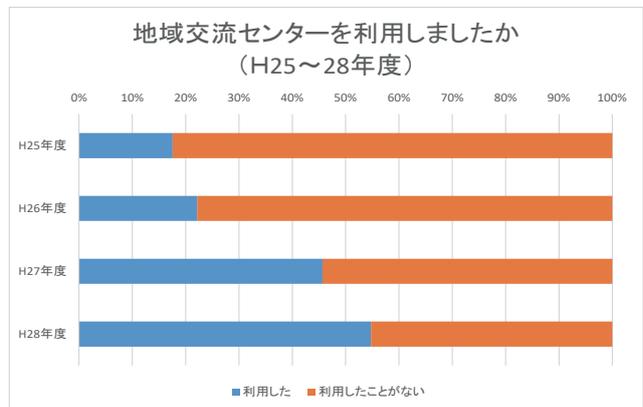
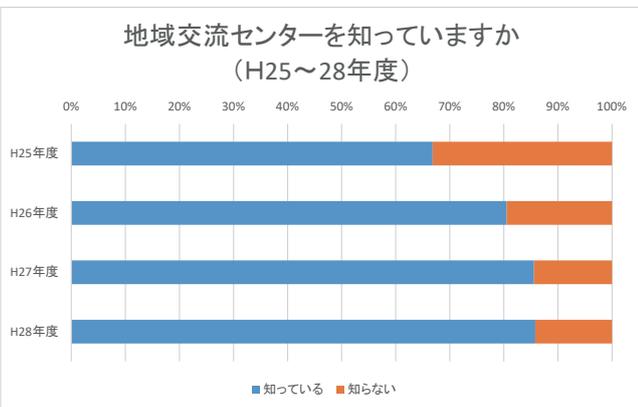
留学希望者は意外と多いんだと感じました。



地域交流センターとは、COC/COC+ 推進室、キャリア・サポート室、国際交流室そして地域交流室の4室のことです。「地域交流センターに期待すること」が多かったのは、フィールドワーク支援、留学支援、就職支援の充実はもちろん、そのための情報発信を積極的にして欲しいという声でした。あとは、センター施設内に入りづらい雰囲気があるので、利用しやすくして欲しいという意見もありました。



県大生の皆さん、アンケートにご協力いただきありがとうございます。ありがとうございました。



(※) 全学アンケート調査で設けられた各アンケートの項目については、大学事務局及び地域交流センターの各所属が設定をしています。地域交流室はアンケート採取・結果・報告書類のまとめを担当しています。

